

## 編集後記

今回はシンポジウムのテーマが「アートを哲学する」だったこともあり、芸術論的な色合いをもつ研究発表が寄稿論文の大部分を占めることになりました。これと並んで、自我と反省の問題に関する発表も今回の『探求』の主軸をなしているように思われます。その他の研究も含め、いずれも密度の高い優れたものです。

ところで今年には編集委員が代替わりしまして、DTP編集も四苦八苦したあげく何とか出版までこぎつけましたが、編集者側の種々の不手際のせいで例年よりも大幅に遅れてしまいました。執筆者をはじめご迷惑をこうむった方々にこの場を借りて深くお詫びさせていただくとともに、今回の反省をいかし、より効率の良い編集を目指していきたいと思えます。つきましては経験のある先輩方、その他お読みになった方々に、忌憚のない序言、ご意見を是非ともよろしくお願いいたします。

九七年度世話人

『哲学の探求』編集担当 村田憲郎（二橋大学）